

令和7年産 コメ通信

第5号（令和7年6月27日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

茎数を確保して適期の中干しを！

1 気象経過と生育状況

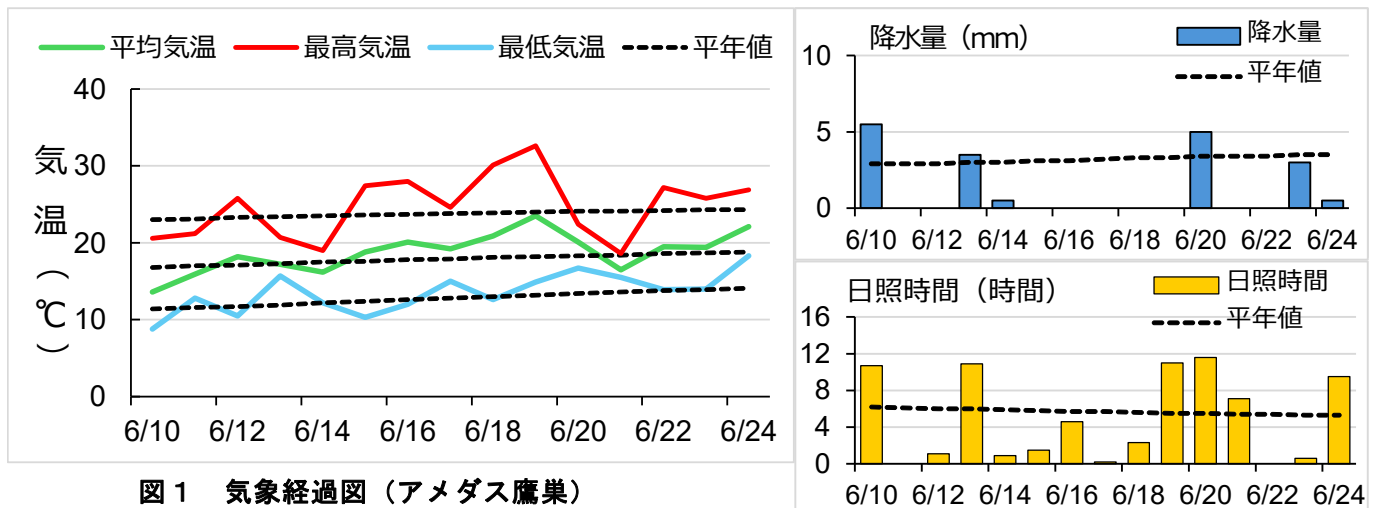


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【気象経過及び1か月予報】

- 6月2半旬以降の気温は高く推移しました。また、降水量・日照時間はともに平年よりも少なくなりました（図1）。
- 仙台管区气象台によると、東北北部は6月14日頃（平年差-1日）に梅雨入りしたとみられています。
- 仙台管区气象台が発表した1か月予報（6月19日現在）では、平均気温は高く、平年と比べ曇りや雨の日が少なくなると予想されています。

【生育状況（定点調査結果）】

- 6月25日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、草丈は平年より長く、茎数は平年より少なく、葉数と葉色は平年並となっています（表1）。
- 6月2半旬以降、高温・寡照傾向となったため、草丈が長くなりました。また、高温傾向により、前回調査で遅れていた生育は平年並まで回復しています。
- 田植時期の低温で活着が遅れ、初期の生育が抑制された影響で、茎数は平年よりも少なくなっています。また、分けつの発生は田植日や水管理方法によって、ほ場間差が大きくなっています。

表1 定点調査結果（6月25日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	42.8	435.7	9.1	43.0
平年	39.3	476.1	9.1	43.7
前年	40.7	508.0	9.6	44.2
平年比較	109%	92%	+0.0	98%
前年比較	105%	86%	-0.5	97%

※平年は過去10か年の平均値を示す。
※葉色はSPAD-502で測定した。

- 目標穂数と同等の茎数を確保できていないほ場では、早期に有効茎を確保する水管理を行ってください。
- 目標茎数を確保しているほ場は、次を参考に適期の中干しを実施しましょう。

2 今後の水管理

【茎数確保に向けた水管理】

- 目標茎数を確保できていないほ場では、浅水管理を継続し、分げつの発生を促進します。分げつの発生は、昼夜の水温較差が大きい場合に促進されるため、かん水は水温の低い早朝に短時間で終わるようにし、日中は止め水とすることで、水温と地温の上昇を促進します。

【中干しによる弱勢茎の抑制】

※茎数が少ない場合は強い中干しを避けてください。

- 目標穂数と同数の茎数（あきたこまちは70株植で1株あたり20本程度、60株植では1株あたり25本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。
- 中干し期間は7～10日間程度とし、田面に亀裂が1～2cm入り軽く足跡のつく程度として、幼穂形成期までに終わります。終了後は間断かん水により土壌を酸化的に保ち、根の伸長を促進します。

3 主要病害虫の防除対策

【いもち病】

- 余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への伝染源になります。ほ場に放置されている余り苗が散見されますので、直ちに泥に埋めて処分してください。
- BRLASTAM（アメダス）の判定では、管内で6月12日及び15日に感染好適日が観測されました。感染した場合は5日～1週間程度で発病しますので、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を茎葉散布してください。また、必要に応じてビーム剤の追加散布を行ってください。

◆農薬の使用回数に注意！

ラブサイド剤（ブラシン剤等含む）の成分である「フサライド」や、ビーム剤（ノンブラス剤等含む）の成分である「トリシクラゾール」の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内となっています。農薬は使用する度に帳簿に記載し、総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

【紋枯病】

- 病害虫防除所による発生予報（令和7年6月24日発表）では、紋枯病の発生時期は平年よりやや早く、発生量はやや多いと予想されています。前年収穫期に発生が多かったほ場は特に注意してください。
- 前年多発したほ場で、本病を対象とした育苗箱施用剤を使用していない場合は、モンガリット粒剤（出穂20～10日前）またはリンバー粒剤（出穂15～5日前）を10aあたり4kg水面施用してください。

【斑点米カメムシ類】

- 病害虫防除所による発生予察では、斑点米カメムシ類の発生時期はやや早いと予想されています。斑点米カメムシ類は、休耕田や畦畔等のイネ科の雑草で増殖し、これらが水田内に侵入して加害します。
- 出穂の15～10日前までに、畦畔や休耕田、雑草地を対象に地域でまとまって草刈りを徹底して行い、斑点米カメムシ類の生息地における密度低下に努めます。
- アカスジカスミカメは、水田内にカヤツリグサ科（ホタルイ類等）やノビエが多発していると、その雑草の穂に産卵し増殖します。除草剤を適切に使用し、水田内の雑草防除を徹底しましょう。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで～次回発行は7月上旬頃～